

◆研究テーマ・内容

健康寿命の延伸を目指したオートファジー制御に関わる食品因子の探索

超高齢、少子社会を迎えた我が国において、持続可能な社会・国づくりのための基盤構築は喫緊の課題である。一方で、我が国はこの人類が遭遇する未曾有の問題に、はじめて直面する課題先進国であるとも言える。したがってこの問題に対する具体的な解決策を提示できれば、今後同様な問題を抱えることが予測される国々に対するビジネスモデルの提案など、大きなチャンスであると捉えることもできる。現在、我が国の平均寿命と健康寿命（病気や寝たきりのない健康で活動的な期間）との間には10年以上の開きがある。成長戦略の一つに「国民の健康寿命の延伸」が掲げられていることから、最優先の政策課題として取り組むべき問題として捉えられている。

高齢者や障害者に対する保健福祉を専門とする教員が多く在籍している人間科学部において、広い範囲で連携可能な研究グループの構築に繋がる可能性があることから、そのコアとなる生命医科学研究領域の発足を目指して研究を実施している。研究代表者はこれまで、老化のメカニズムに関する基礎研究を中心に行ってきたが、本学術院が持つ、生命医科学、農林水産学、高齢者・社会福祉政策を専門とする教員の力を結集・融合させることで、上記の課題解決に向けた研究拠点を形成することが可能と考える。

本プロジェクトでは、地方で生産された農産物に含まれる機能性成分の作用について、主にオートファジーの活性化や抗酸化活性などを指標として、その健康増進作用について分子病理学的に解析を行っている。プロジェクトには、社会福祉法人や産業界からもメンバーとして参加して頂き、研究活動を行っている。これまでに得られた研究成果は積極的に社会還元するとともに、本学部の「エイジングサイエンス」などの授業において活用する。基礎生命科学研究の成果の紹介のみならず、産学連携に関する具体的な進め方や問題点についても講義などを通じて解説を行い、社会起業家の重要性について理解を深めてもらうように努めていく。

◆担当教員：千葉 卓哉教授

<主な著書>

千葉卓哉 はじめての老化学・病理学-人間科学のためのライフサイエンス入門- コロナ社 2016. pp174.

Shimokawa I and Chiba T. Food and longevity genes, Bioactive Food as Dietary Interventions for the Aging Population, Edited by Ronald Ross Watson and Victor R. Preedy. Elsevier. 2013. pp. 61-70.

<社会的活動>

日本病理学会（学術評議員）、日本抗加齢医学会（評議員）、日本基礎老化学会（評議員）、老化促進モデルマウス(SAM)学会（評議員）、東京都健康長寿医療センター研究所（協力研究員）